

かながわ環境大使（白井貴子さん）の環境コラム

温カナ！news 第41号 2025年12月15日配信

大地の恵みで元気にな～れ！

2025年もあっという間に終わりですね！時間に追われて生きるのはもうやめよう！と、コロナ禍に「花は咲いている」という歌を作り「急ぎすぎた世界へ二度と戻らないで」という詩を書き、あれほど心に誓ったのに、やっぱり今年も時間に追われて生きてしまった！という1年でした。

いつまでも情けないな～と、かなり反省モード（笑）でも、そんな時、疲れる心を癒すように、久しぶりに幼い頃遊んだ道を歩いたら「紅花ぼろ菊」と言う花が咲いているのを見つけました！幼き頃は全く知らない花の名前でしたが、数年前「摘み菜の会」の藤井文子さんに教えてもらい覚えたので、すぐにわかりました。私も小学生の頃よりは少しは進歩したのかも？！（笑）と嬉しくなりました。「ぼろ菊」なんて名前ですが、味は真逆でこの花は野草好きの方にはご馳走の花だそう。

今年、私は人生の秋、恵の季節！と感謝するようなありがたい出来事がたくさん巻き起こりました。30年前に理想を描きやり始めたことが、どんどん表面化というか、夢が現実になってきているんです。長く音楽やっていて本当に良かった！

その1つが、生まれ故郷神奈川の食材で、貴子スペシャルなライブグッズを作る！と言うもの。私は長年、小田原のふるさと大使をやらせていただいておりますが、その小田原にある、歴史的建造物の菓膳喫茶「KURA」の皆さんに、来年「オリジナルジャム」を作っていただくことになったのです！

使う食材は、小田原産みかんや海老名産ラズベリー、そして、なんと、私が家を買おうと思って間違えて買ってしまったといつも冗談のように伝えている森「南伊豆マーガレットグラウンド」のレモンを使ったジャム！コンサートで販売する、ファンの皆さんに手に取ってもらうものを、なるべく体に良いものにしたいと願い始めて30年。来年はだいぶ形になりそうです。

そんな思いで、2年前には神奈川県の名品、中華街のフライパン製作「打出し」の文字で有名な山田工業所さんの 鉄のフライパンも作っていただきました！その話はまたゆっくりしますね。

何よりこの10年位で私のお友達や、私より歳の若いファンの方も病気になる方が多く、ちょっと若すぎ！と長年の「TAKAKOスペシャルグッズ」の思いに火がついた！少しでも体にいい「おいしいもの」を提供したい！という思いは募るばかり。

そんな中、小田原の薬膳喫茶「KURA」の皆さんに出会うことができました。お店は昭和7年頃建てられたといえます。元々は「左官屋さんの自宅」として建てた家だそうですが、まるで親方の技を次世代へと伝える「遺言」のような職人のこだわり満載のおしゃれでレトロな和洋折衷な歴史的建造物。細部にわたり描いた「KURA」のイラストは吉宮晴紀さん作。こちらもビックリ！是非、皆さん、一度お出かけください。お店では滋味溢れるいかにも体に良さそうなメニューに、今、薬膳コーラが人気だそう。来年、1月24日のZepp横浜でのライブがありますが、そのホワイエで開催の「SDGsカーニバル」会場で「TAKAKO's 神奈川県産ジャム」と一緒に販売してもらおうと思っています。

大地の恵、野草の力をいただいて「元気にな～れ！」皆さんもお忙しいと思いますが時には、足元の花に声をかけて、地の力をいただいてどうぞ良いお年をお迎えください！来年、私はデビュー45周年本番！私も薬膳を沢山食べて頑張ります！どうぞよろしくお祈りします。



マーマレードを作って下さる 小田原 薬膳喫茶「KURA」の飯山さんと前島さん



小田原 薬膳喫茶「KURA」の前でオーナーの飯山さんと



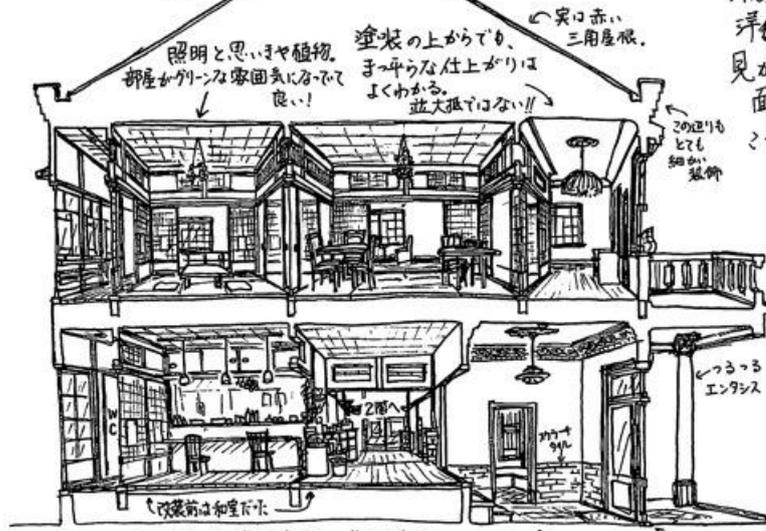
野草マニアの皆さん人気の紅花ぼろ菊



やけに暖かだった12月1日、
ブランコに座ってひなたぼっこしながら、
携帯でコラムを書きました！
2026年もみんなで良い年にしましょう！

旧朝倉家住宅—葉膳喫茶 KURA
 THE FORMER ASAKURA FAMILY RESIDENCE —
 — YAKUZEN CAFÉ KURA

木造二階建
 昭和七年建築
 和洋風



左官職人の自宅として建てられたという洒落た古民家。外観は非常に凝ったモダルの洋館だが、中には和室が。見かけと暮らしを両立させた。面白い建物。ずっと気になってこうして地域の拠点になり、本当に良かった。

全国四番目の電車が目の前を走っていた(時) → 廃止は昭和十年なので三年間くらい共存していた!

今は駅から徒歩四分。人、食事、建物、お楽しみ。ここ飯橋の中央に、すてきな最高のお店ができて半年、早くも地域が賑わいはじめた。



コンパクトだが多様な空間に満ちた店内。様々な種類の席があり、何度来ても飽きない。
 ← 本裏の通りには小噴水。 22の軒を見れば技術力の高さがわかる。

緑色のはい石の装飾

令和六年四月三十日
 吉宮 晴紀

吉宮君が書いてくれた旧朝倉邸解説